

原発ゼロでも経済成長できる！よくぞ言った小泉さん！

本気ですか？本気であってほしい

原発事業を推進してきた自民党の小泉元首相が最近、脱原発発言を繰り返している。「日本は一刻も早く、原発ゼロ社会を目指すという方針を決めるべき。そして政治がそれを主導すべき」と。どこまで本気なのか？という疑いがないわけではないが私は小泉さんの変身を歓迎する。

小泉さん（と親近感をもって呼ぼう）は脱原発を主張する理由を二つ挙げた。核廃棄物の処分場が確保できないことと、安いエネルギーではないことが福島第一原発の事故で明らかになったことだ。

処分場より、ゴミを作らないこと

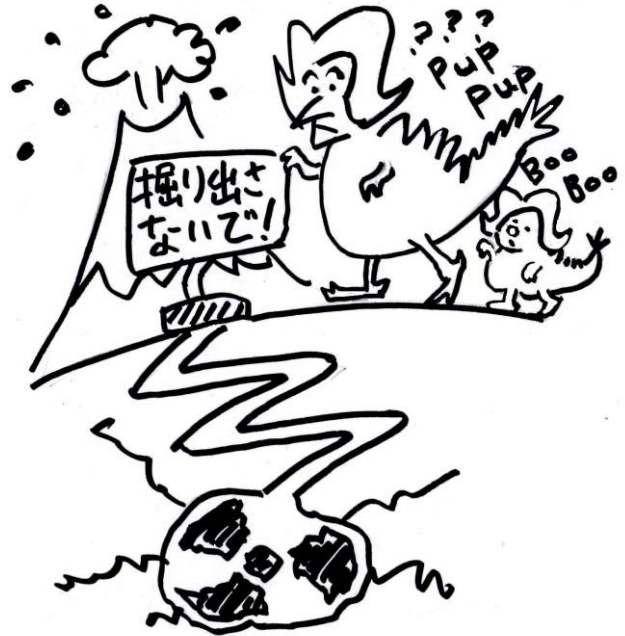
原発からうまれる核廃棄物の最終処分場（核のゴミ捨て場）の引き受け手が見つからないというのは当然だ。

原発大国フランスは、パリの西方、人口95人のヴィール村の地下500メートルに巨大な最終処分場を建設しようとしている。放射性物質を10万年は閉じ込めることができるらしい。住民の反対が強く、本格建設には至っていない。

フィンランドはすでに最終処分施設オンカロ建設を始めている。8月には小泉さんも視察したそうだ。ドキュメンタリー映画「10万年後の安全」で、未来の子どもたちに危険を託したことの罪と虚しさが描かれた。

安倍総理は今年の3月にモンゴルを訪問した。モンゴルに日本の核廃棄物の処分場を作る話をしたのでは、と憶測が飛んだが、もし本当ならえげつない話だ。道徳観に欠ける。

どこで処分（というか、地下に埋めておくだけのこと）するにせよ、危険はなくなる。だから処分場探しはうまくいくはずがない。原



子力発電とは毒を生産し続けるとんでもない工場である事実を推進派政治家はどう説明する？

みんなが変わらなくちゃ！

福島第一原発の事故処理の状況を見て「原発は安いエネルギーではない」と思ったのは小泉さんだけではない。全国民が思い知らされた事実だ。危険でお金もかかるとわかったらすぐにもやめればよいと思うけれどそれができない。

原発誕生から40年、電力会社や原発建設を受け入れた自治体など、多くが原発に依存して生きてきた。事故が起きたからといって原発のない生活に切り替えることは簡単ではない。その気持ちはわかる。一日も早い再稼働を期待する気持ちもわかる。それでも原発はなくすべきだ。今、原発を稼働し続けることは福島の事故から何も学ばないことに等しい。子どもたちにきちんと説明するためにはみんなが変わらなくちゃ！政治家が変わらなくちゃ！